

特集展

受贈記念

木村盛康・

天目のきらめき

Featured Exhibition

Commemorating the Gift to the Museum:

Iridescent Sparkles of *Tenmoku*

— Works by KIMURA Moriyasu

1

木村盛康

ゆ てきてんもくちやわん
油滴天目茶盃

1996

h:6.3cm d:13.3cm wt:274g

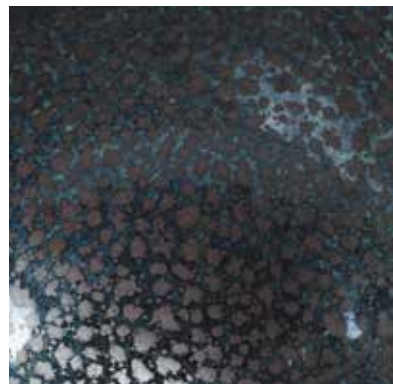
匿名氏寄贈

KIMURA Moriyasu

Yuteki Tenmoku Tea Bowl

Anonymous gift

やや赤味を帯びた小さな鉄色の斑文が内外に生じており、中国金時代を中心に華北地区で流行した、いわゆる「北方油滴」を彷彿とさせる。よく見ると斑文の下には青白い釉薬も見られ、あたかも銀河に小さな星がちりばめられたようである。木村盛康は鉄分に様々な天然鉱石を原料とした金属酸化物（マンガン、クロム、コバルトなど）を加えて多彩な発色を生み出しており、本作も独自の油滴天目といえる。



2

木村盛康

ようへんのぎ め てんもくちやわん

窯変禾目天目茶盃

1996

h:6.5cm d:13.7cm wt:282g

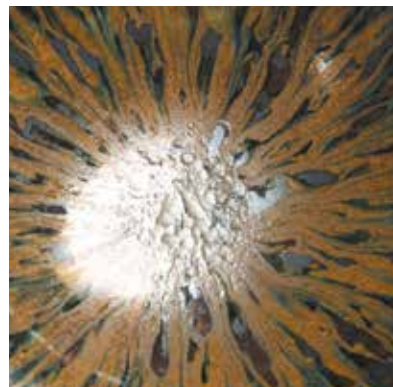
匿名氏寄贈

KIMURA Moriyasu

Yohen Nogime Tenmoku Tea Bowl

Anonymous gift

茶碗内部中央、いわゆる見込みの部分に黒釉を背景にブロンズ色の禾目文様が炎のゆらぎのごとく生じている。禾目文様には青・黄・緑などの発色もわずかに見られ、さらに銀彩が随所に点じられている。口縁部は赤褐色を呈している。鉄分をはじめ様々な金属酸化物を用いた釉薬の二度掛けにより多彩な色彩を生じさせた、木村盛康独自の禾目天目である。



3

木村盛康

ようへんてんもくちやわん

耀変天目茶盃

1997

h:7.2cm d:13.3cm wt:236g

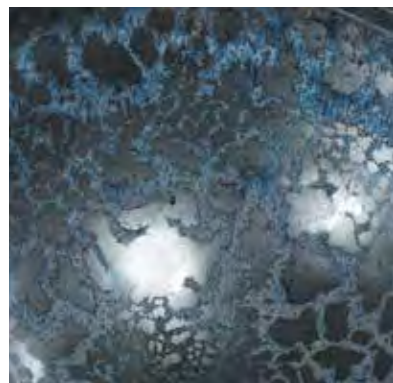
匿名氏寄贈

KIMURA Moriyasu

Yohen Tenmoku Tea Bowl

Anonymous gift

深い藍色に発色した釉に大小様々な銀の斑文がびっしりと点じられ、間には青白色や淡いピンクやオレンジ色の釉も所々に見られ、色彩感豊かなきらめきを見せている。国宝の「耀変天目」三碗はこれまで多くの陶芸家を魅了してきたが、木村盛康のこの「耀変天目茶碗」もそうした国宝にインスピレーションを受けた独自の創作といえよう。



木村盛康

しょうじゅてんもくちやわん

松樹天目茶盃

2005

h:6.5cm d:13.5cm wt:285g

匿名氏寄贈

KIMURA Moriyasu

Shoju Tenmoku Tea Bowl

Anonymous gift

「松樹天目」は1978年に発表された木村盛康オリジナルの天目である。漆黒の地に銀色を帯びた独特な形状の文様が松の樹皮を彷彿させる。内外にびっしりと松樹文様の広がりには、独自の生命力を感じさせる。口縁部にはちょうど覆輪のように茶褐色の細かな筋や点が生じている。口縁部などに見られるはわずかに波打つ成形には、自然界のゆらぎのような心地よさを感じさせる。



5

木村盛康

のぎ め てん もく ちや わん

禾目天目茶盃

2006

h:6.7cm d:13.5cm wt:289g

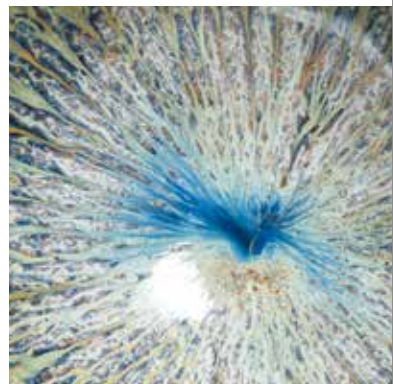
匿名氏寄贈

KIMURA Moriyasu

Nogime Tenmoku Tea Bowl

Anonymous gift

宋代建窯の禾目天目をイメージしながらも、全く異なる木村盛康オリジナルの禾目天目となっている。技法的には吉州窯の玳瑁天目にむしろ近いといえ、霧吹きによる釉の二度掛けなどを活用しながら、青・緑・黄など複雑な色合いの禾目文様を生み出している。見込みに生じた青い銀河のような釉だまりも美しい。



6

木村盛康

てんくうちゃわん

天空茶盃

2008

h:9.0cm d:12.0cm wt:318g

匿名氏寄贈

KIMURA Moriyasu

Tenku Tea Bowl

Anonymous gift

やや筒形の茶碗で、茶褐色を帯びた釉に斑状の装飾、そしてその上を包み込むように雪のような白色の貫入風の網目状文様が生じている。胎土はバニラアイスのようなやや黄味を帯びた柔らかな質感で、盛康が好んで用いるものである。その名称から分かるように、天空に思いを馳せた木村盛康オリジナルの天目である。



7

木村盛康

てんくうちゃわん

天空茶盃

2008

h:8.0cm d:12.6cm wt:319g

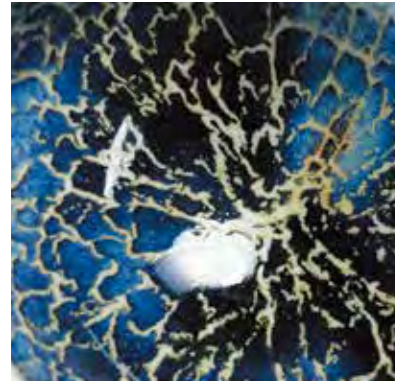
匿名氏寄贈

KIMURA Moriyasu

Tenku Tea Bowl

Anonymous gift

濃淡のある青色の釉薬上に、雪や雲のような白色の独特な網目状の文様が生じている。口縁部も白く塗られ、いわゆる「白覆輪」を彷彿させる。こちらも「天空茶盃」と名付けられているが、グラデーション豊かな青色は銀河のようでもある。



8

木村盛康

きょうむらさきてんもくちやわん

京紫天目茶盃

2009

h:6.8cm d:13.5cm wt:278g

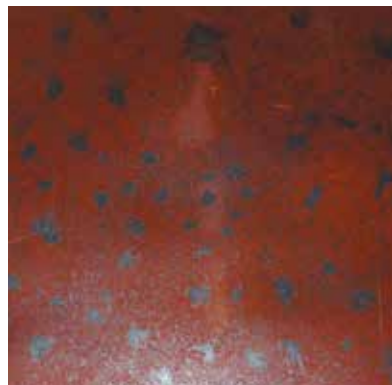
匿名氏寄贈

KIMURA Moriyasu

Kyo-Murasaki Tenmoku Tea Bowl

Anonymous gift

器の内外には独特の赤味を帯びた鉄釉が掛けられ、小さな銀色の斑文がびっしりと生じている。「京紫天目」と名付けられており、「京紫」とは京都で染めた赤味のある紫色を指す。地元京都の伝統色を新たな天目釉の創作に見事に生かした木村盛康オリジナルの天目である。



9

木村盛康

てんざんちゃわん

天山茶盃

2009

h:8.7cm d:12.3cm wt:386g

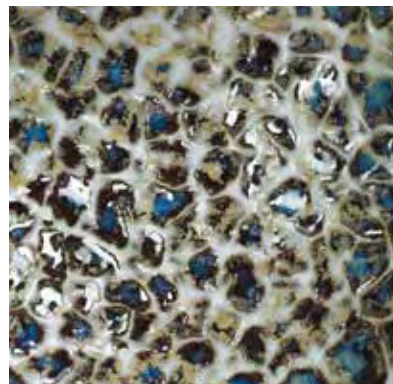
匿名氏寄贈

KIMURA Moriyasu

Tenzan Tea Bowl

Anonymous gift

赤味を帯びた褐色の釉薬はいわゆる「^{かいらぎ}梅花皮」状を呈し、独特の手触り感を生み出している。さらにその上を白色の釉薬が網目状に覆っており、網目の中には青白色の斑文が点じられている。「天山」はシルクロードの交易路にある天山山脈の雪景色をイメージしているのであろうか。



10

木村盛康

てんもくそらちゃわん

天目宙茶盃

2009

h:6.9cm d:13.2cm wt:281g

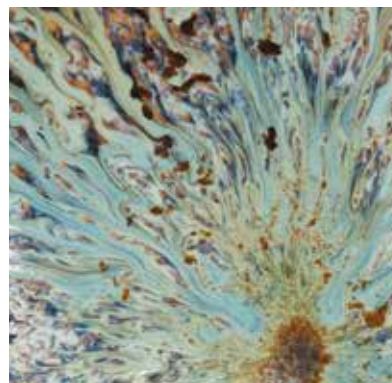
匿名氏寄贈

KIMURA Moriyasu

Tenmoku Sora Tea Bowl

Anonymous gift

禾目天目を彷彿させ、内面には青・緑・黄・茶など多彩な色彩を見せる釉薬が重層的に中心に向かって流れ落ちる様は壮観である。見込み中央に偶然生じた褐色の点はあたかもブラックホールのようにもあり、そこに向かって吸い込まれているかのようなのである。飴色に発色した口縁部は覆輪のような効果を見せている。



木村盛康

かくてんもくわけいかずちやわん

赫天目別雷茶盃

2009

h:7.1cm d:13.6cm wt:285g

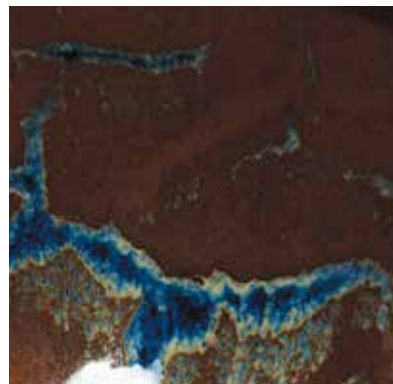
匿名氏寄贈

KIMURA Moriyasu

Kaku-Tenmoku Wakeikazuchi Tea Bowl

Anonymous gift

茶碗の内外には、鮮やかな赤褐色の褐釉が全体にかけられ、その上にコバルトによる藍色の筋が大胆に施されている。藍色部分には所々に黄白色もうかがえる。青色の文様は大地に生える植物のようにも見える。名前の別雷は「別雷神」^{わけいかずちのかみ}に由来するものと考えられ、青色の文様は大地に降りた雷光のようにも見える。



12

木村盛康

のぎ め きょくせい ちゃわん

禾目極星茶盃

2013

h:7.4cm d:14.8cm wt:315g

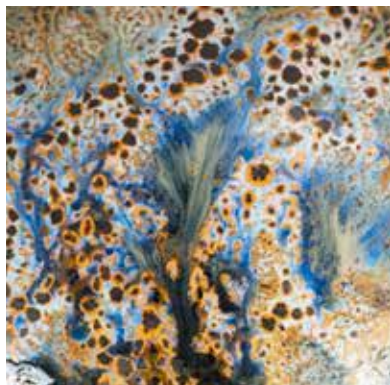
匿名氏寄贈

KIMURA Moriyasu

Nogime Kyokusei Tea Bowl

Anonymous gift

同じ禾目茶碗でも細く規則的な禾目文様とは異なり、不規則な形で樹木の枝のような禾目文様を見せている。さらに、茶褐色の小さな斑文や青色の流れがその隙間を走っている。多彩な色彩と文様や質感はあたかも抽象絵画のようであり、「禾目極星」の名が付けられている。「色彩のハンター」とも呼ばれる木村盛康の面目躍如である。



13

木村盛康

てんもくだい ごちやわん

天目醍醐茶盃

2013

h:7.3cm d:13.9cm wt:277g

匿名氏寄贈

KIMURA Moriyasu

Tenmoku Daigo Tea Bowl

Anonymous gift

黒釉の上に鉄色でやや銀色がかった炎のような文様が浮かび上がるかのようなのである。碗の中に吸い込まれるような躍動感ある文様であり、そこには一種の生命力も感じられる。やや硬く焼き締まり、胎土は黄土色を呈している。「醍醐」とは五味の第五で、牛や羊の乳から精製した最上の味を指し、転じて仏の悟りや教えにもたとえられる。禅院の茶礼の器でもあった天目へのオマージュといえよう。



14

木村盛康

てんとちゃわん

天都茶盃

2017

h:7.3cm d:13.6cm wt:248g

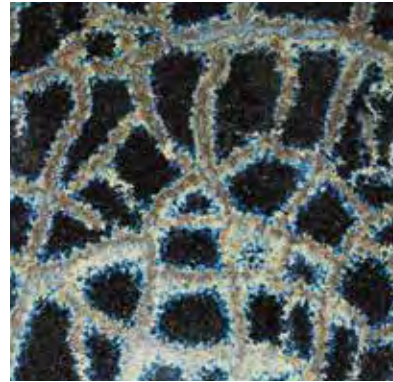
匿名氏寄贈

KIMURA Moriyasu

Tento Tea Bowl

Anonymous gift

内外に貫入が網目のようにめぐり、その周囲には青色も生じている。口縁部は飴色を呈しており、黒釉の中にも飴色がきらきらと輝く。日本各地の原土をブレンドして用いている胎土は柔らかみのある黄味がかった白色を見せている。高台はやや高く削り出しており、手取りはやや軽い。碁盤目状の平安京に対し、貫入の網目状に「天都」の理想を見たのであろうか。この「天都」は傘寿の年に発表されたもので、絶え間ない創作意欲を感じさせる。



15

木村盛康

てんもくしょう うちゅうちゃわん

天目小宇宙茶盃

2017

h:6.5cm d:10.6cm wt:223g

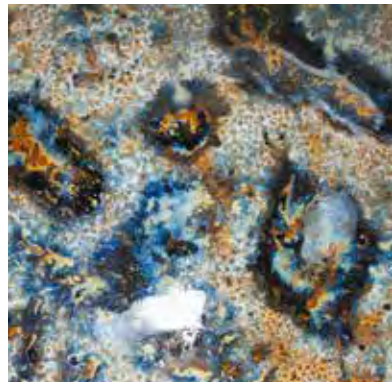
匿名氏寄贈

KIMURA Moriyasu

Tenmoku Sho-Uchu Tea Bowl

Anonymous gift

飴色をベースに青・白・黄など多彩な発色の釉薬が混じり合い、さらに大きめの茶褐色の斑文が大胆に内外に施されている。鼈甲べっこうを思わせるその色合いと質感は吉州窯の玳瑁天目に通じるところがある。宋時代の天目は闘茶の流行に伴い様々な趣向を凝らした文様や技法が追及されたが、木村盛康の天目創作における様々な試みもそうした伝統に通じるものがある。



16

木村盛康

てんもくまんようちやわん

天目満耀茶盃

2018

h:6.7cm d:13.9cm wt:252g

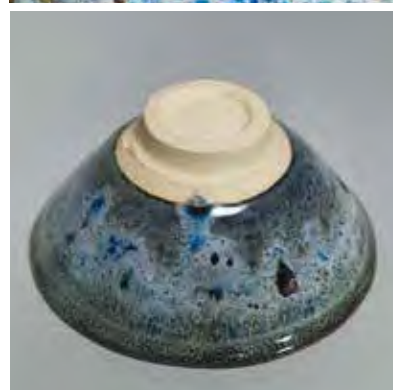
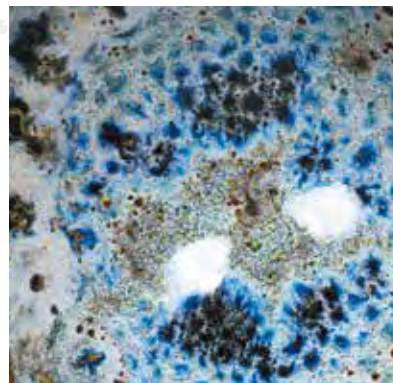
匿名氏寄贈

KIMURA Moriyasu

Tenmoku Manyo Tea Bowl

Anonymous gift

やや直線的に器壁が立ち上がっており、口縁部は玉縁状を呈している。内外には鉄分をはじめ様々な金属酸化物を用いた釉薬の二度掛けによる複雑な色合いの釉薬に多彩な形状の斑文が生じている。とりわけ見込み部分の青色から紫色のグラデーションは目を引く。「満耀」と名付けられたのはそうした多彩な輝きに満ちた特徴ゆえであろう。



17

木村盛康

のぎめへきてんもくみずさし

禾目碧天目水指

2000

h:12.6cm d:18.3×18.3cm wt:1,119g

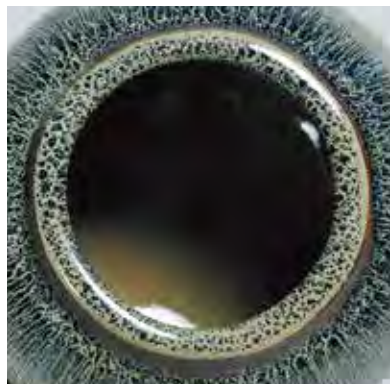
匿名氏寄贈

KIMURA Moriyasu

Nogime Heki-Tenmoku Water Jar

Anonymous gift

小ぶりの丸壺形の水指で、口縁部は丸みを帯びた平縁となっている。胴部外面には茶褐色の釉薬の上に、釉の二度掛けにより黄白色や青白色の細い禾目が肩から裾まで生じている。また内部にも同様の禾目が見らる。器の内外をおおう禾目文様には植物のような独特の生命力が感じられる。



18

木村盛康

ようへんてんもくこうろ

耀変天目香炉

1999

h:16.8cm d:15.0×15.0cm wt:1,792g (香炉のみ)

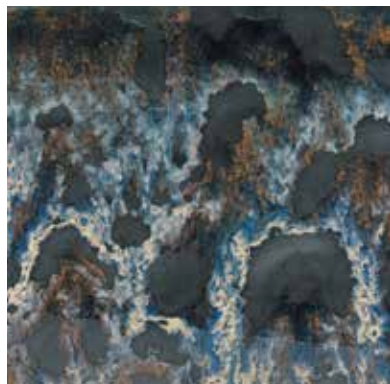
匿名氏寄贈

KIMURA Moriyasu

Yohen Tenmoku Incense Burner

Anonymous gift

立方体のどっしりとした存在感のある香炉である。口は円形にあけられている。藍・青・茶・青・黄など多彩な釉が混じり合い、銀色の斑文が随所に点じられている。高台は厚く削り出されており、胎土は灰黒色を呈し、高台内には大きめの「盛康」銘の陽刻丸印が見られる。
め の う 瑪瑙製のつまみの付いた紫檀の火屋がつく。



19

木村盛康

ようへんのぎ め てんもくはち

窯変禾目天目鉢

2000

h:9.6cm d:33.6cm wt:2,440g

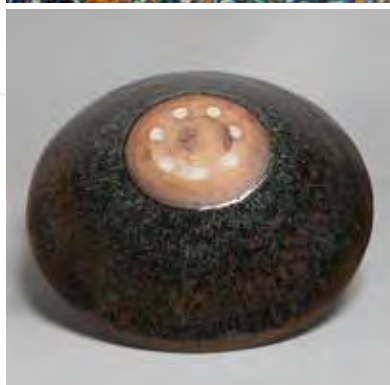
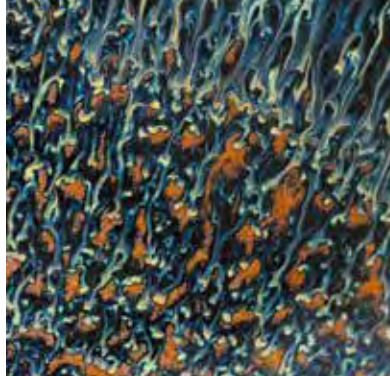
匿名氏寄贈

KIMURA Moriyasu

Yohen Nogime Tenmoku Bowl

Anonymous gift

木村盛康の多彩で独自の釉技が最も生かされるのがこうした大鉢や大皿の作品といえる。鉢や皿の見込みが絵画のキャンバスのごとき役割で、なおかつ見込みに向かって自然に流れる多彩な釉薬が織りなす文様が一幅の美しい抽象絵画を見るようである。窯変禾目文様の細部に目を凝らすとそこには大宇宙や大自然のごとき雄大な景色が目の前に広がる。



20

木村盛康

ようへんのぎ め てんもくさら

窯変禾目天目皿

1997

h:6.0cm d:30.9×30.9cm wt:2,020g

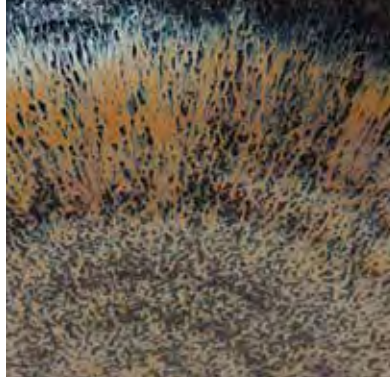
匿名氏寄贈

KIMURA Moriyasu

Yohen Nogime Tenmoku Dish

Anonymous gift

意図的に真円の皿に変化をつけた不定形の造形は、自然のゆらぎを感じさせ心地よい。口縁部の飴色から、見込みに向かって青色の禾目、黄土色の禾目、褐色の斑文がグラデーションのように重層的に展開している。底部には鉄泥漿^{でいしゅう}が塗られており、「盛康作」銘が刻されている。



21

木村盛康

てんくうつぼ

天空壺

2009

h:25.8cm d:18.0×18.0cm wt:2,580g

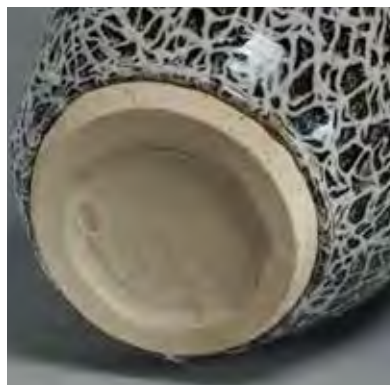
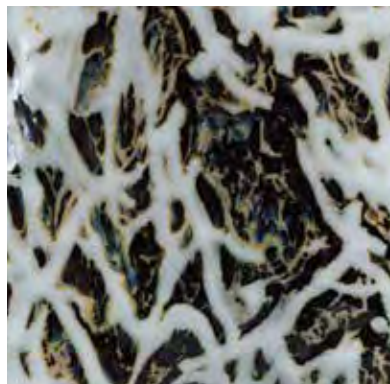
匿名氏寄贈

KIMURA Moriyasu

Tenku Jar

Anonymous gift

口がやや高く、細長い壺である。胴の三方に内側から縦の筋を入れ、造形に力強さや躍動感を加えている。全体に掛けられた黒釉上に白い網目状の文様が全面に施されている。所々には青や黄も混じっている。霧吹きを用いた釉の二度掛けによる多彩な色彩を帯びた独自の文様には生命感あふれる自然の息吹が感じられる。



木村盛康

のぎ め むらさきてん もくつぼ

禾目紫天目壺

1997

h:24.4cm d:20.1×20.1cm wt:2.380g

匿名氏寄贈

KIMURA Moriyasu

Nogime Murasaki-Tenmoku Jar

Anonymous gift

壺の内外には飴色の釉薬上に黄土色の禾目が一面に生じており、青や緑など多彩な色が混じり合って複雑な色調と文様変化を生み出している。それはあたかも複数の絵の具を塗り重ねたごとくであり、釉薬による色の魔術師ともいうべき、木村盛康独自の天目世界といえる。



23

木村盛康

のぎめへきてんもくかき

禾目碧天目花器

1999

h:44.5cm d:23.3×15.8cm wt:8,460g

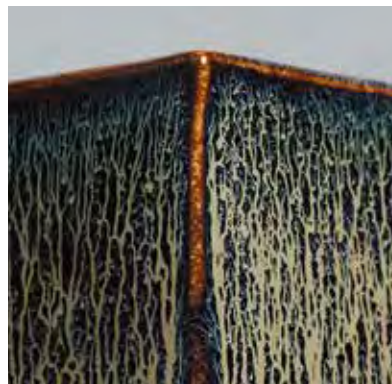
匿名氏寄贈

KIMURA Moriyasu

Nogime Heki-Tenmoku Flower Vase

Anonymous gift

長方体の胴部と円形の口による幾何学的な造形ではあるが、稜線のわずかなゆらぎがここでも自然な感じを醸し出している。内外全面に禾目文様が生じているが、細く長い筋の禾目は樹木のようにも見え、自然の力強い生命感が感じられる。縁の部分の褐色から青・緑、そして黄白色と釉薬の多彩なグラデーションも美しい。胎土は黒く、底部に「盛康」銘が刻まれている。



24

木村盛康

てんくうはち

天空鉢

2018

h:11.1cm d:35.5cm wt:2,960g

匿名氏寄贈

KIMURA Moriyasu

Tenku Bowl

Anonymous gift

濃紺から青の美しい釉をベースに、白色の釉により貫入のような独特な文様が施されている。「天空」の名のごとく、深い空の青と白い雲がイメージされるが、同時に自然の荒々しさや生命の力強さを感じさせる。鉄分をはじめ様々な金属酸化物を用いた釉薬により多彩な発色を生みだし、作品ごとに独自の文様を生み出している木村盛康天目の真骨頂といえよう。



25

木村盛康

てんもくこうやまはち

天目黄山鉢

2018

h:10.2cm d:37.0cm wt: 3,120g

匿名氏寄贈

KIMURA Moriyasu

Tenmoku Koyama Bowl

Anonymous gift

見込みがやや深く、口縁三方を捻じり花状にした大鉢である。内外には黄色や黄土色の独特な波状の文様がリズムカルに施され、さらに青色の釉ものぞいている。黄山は中国安徽省にある景勝地であり、伝説の皇帝である黄帝が不老不死の仙薬を飲み仙人になったという言い伝えがあり、中国においては「仙境」のイメージを伴う。そうした仙境を想起させる木村盛康オリジナルの天目作品である。

